

「姉妹都市コンコード交流」

七飯町商工会青年部 中川 友規

このたび、姉妹都市交流ということでアメリカに行ってきましたが、私は英語がまったく出来ないの、まさか自分がホームステイをするなんていうことは人生の中でありえないことだと思っていました。社会人になってからこのような話しがくると分かっていたら、中学生の頃からしっかりと英語の勉強をしていたのにと思いました。

コンコードに行くことが決定してからは、英語の勉強をしようと思っていましたが仕事などなんだかんだ結局ほとんど勉強が出来ないまま出発の日を迎えました。その為、自分の中ではかなり不安の状態で行きました。

しかし、私のホームステイ先は加藤君と2人だったので正直加藤君と一緒に何とかなるなと思いき、安心して行きました。

そんな気持ちのままコンコードに到着し、迎えに来ていたホームステイ先のハリーさんと対面し、七飯町訪問団のみなさんとお別れし、いざ、ハリー家へ到着してみるとやはり日本語はまったく通じないので一気に不安になり、「加藤君頼むぞ」という思いに変えてホームステイ生活をはじめることになりました。



ハリー家と一緒に

ハリー家は、ハリーと奥さんのジョイス、小学4年生のジェイコフ、19歳のサムの子4人家族です。サムは家にはいなくて別な所に住んでいるようです。

ホームステイ生活では、片言の英語や身振り手振りでどうにか不自由なく生活を送ることができ、私自身が英語を分かっているかのような錯覚まで起きていましたが、ハリーさんに一言話し掛けられるたびに我に帰り加藤君を探していました。

生活事態は、このようなやり取りを繰り返して過ごしていました。

日中は、コンコードの人達と役場へ行きコンコードという町のあり方などを教えてもらいました。日本や七飯町の町政とはまったく違い、コンコードでは町民が全員で町を考え、町政に取り組み、町民全体で町を運営しているのです。七飯町でも町を想い生活している方も大勢いると思いますが、選挙の時意外は町民全体が町に対して団結し考えることが無いような気がします。(私も含めて・・・)

仕事や家庭などで忙しくそれぞれ町のことまで考えるというのは現実では中々難しい

と思いますが、実際に住民全体で取り組んでいる町もあるのだな、と一つ勉強になりました。

その他は、下水処理施設の見学や、CCHS での校内見学、コンコード消防署見学、警察署見学、などコンコードの町のいろいろな場所を見学に行きました。



アメリカの給油機

その一つにガソリンスタンド見学があり仕事上参考にできればと思い、じっくりと見学をしようと思っていたらあっという間に終了し、次の見学場所へと移動となり早すぎて少々残念でしたが、日本のガソリンスタンドとは違い、サービス業という感じが無くお客さんと対等のようなスタイルでした。そのガソリンスタンドだけなのかなと思っていたら、アメリカでは日本のようにお客様は神様だというような言葉は無いらしく、日本の接客サービスとはほど遠いものでした。

逆に言えばそれだけ、お店とお客さんとの信頼関係があるからそのスタイルで商売がなりたっているのかなと思いました。(うまく伝えづらいかも・・・)

また、言葉がまったく分からないのにソロー小学校の4年生と2年生に折り紙教室を開きカエルやカブト、手裏剣の作り方を教えることになり、身振り手振りで何とか教えることに成功しました。言葉が無くても気持ちが通じて日本では考えられない経験をしたと思います。さらに、ここで私の名前と同じユウキという日本人の子供がソロー小学校に通っていたので、自己紹介の時に自分の名前を言っただけで子供たちが大騒ぎになり私一人で、一瞬パニックになるという出来事もありました。



ソロー小学校にて小学生と交流

ホームステイは7日間で最後の日はホストファミリーと、一日中一緒に過ごしました。その日ビックリしたのは、ハリーの息子19歳のサムがセスナに乗せてくれることになり、私と加藤君と大森さんの三人で小型機ばかりの飛行場に行きコンコードを空から見る事が出来ました。とてもキレイでしたが、大森さんが操縦し、景色を見る余裕が無くとっさにデンジャラスなどの英語を加藤君と2人で叫んでいました。その後、私もサムに操縦してごらんと

言われたのでその気になり、ハンドルを握った瞬間叫び声が！大森さんと加藤君です。で

もサムがいいと言っているので滅多に出来ない経験をしっかりと体験してきました。

その他にもカヌー体験などいろいろな所に連れて行ってもらい、ホストファミリーのハリ一家には感謝しています。

今度は、英語をもっと話せるようになってコンコードにまたきたいと言ったらその時は是非、ハリ一家に泊まってくれと言ってくれてメールアドレスなどを教えてくれました。頑張って勉強してお金ためて行きます。

ホームステイが終わり、ボストン、ニューヨークにも行きたくさんの観光名所なども見学して楽しんで帰るだけだと思っていましたが、観光名所の印象よりもニューヨークの格差社会が印象に残っています。

分かりやすいのが、救急車を呼ぶと日本円で1回、約2万円の請求が来るようです。

さらにサイレンを鳴らして急いでもらうと、5万円くらい請求がくるようです。

病院に行くのも医療代が高いようで低所得の人はものすごく大変らしいです。

普段当たり前のように生活している日本はものすごく恵まれているのだなと改めて実感しました。

このような体験をさせていただき、いろいろな考え方が出来るようになりました。

今回とても貴重な機会を与えてくれた七飯町に大変感謝し今後もこの経験をいかして町のためや、自分の人生を大事に歩んでいきたいと思えます。

七飯町とコンコード町、大変ありがとうございました。